

大人も子どもも  
楽しめる!

# イベント大特集

## 県立美術館 7/26(月) 27(火) アレコホール 東アジアの音 ～ロシアより音楽にのせて～

「ロシア音楽の夕べ」  
■日時:7月26日(月)19:00～  
■出演:  
【ピアノ】 オルガ・ホイチェホフスカ  
(国立文化学院教授)  
浅野清(弘前大学教授)、村田恵理、  
堀内亮、竹内奈緒美  
【クラリネット】 ゲンナジー・チャーシ  
(極東フィルハーモニー首席クラリネット奏者)  
【フルート】 竹澤聡子  
【ソプラノ】 虎谷亜希子

「ピアノとクラリネットによる競演」  
■日時:7月27日(火)19:00～  
■出演:  
【ピアノ】 オルガ・ホイチェホフスカ  
【クラリネット】 ゲンナジー・チャーシ

※料金は両日とも、一般 2,500円  
学生2,000円 小中学生1,500円  
(当日券は全て500円増し)  
お得な26日、27日通し券もありますので、  
詳しくは下記までお問い合わせください。

☎017-783-5243  
<http://www.aomori-museum.jp/>

## 県立郷土館 サントリー美術館名品展

「生活の中の美」を基本理念に日本古来の美術・工芸品の収集に  
力を注いでいるサントリー美術館。そのコレクションの中から、  
絵画・漆工・ガラス・染織など重要文化財、重要美術品を含む選り  
すぐりの名品を集めて紹介します。  
■会期:5月21日(金)～7月4日(日) 休館日6月11日  
前期 5月21日(金)～6月10日(木)  
後期 6月12日(土)～7月4日(日)  
※前期後期で一部展示品の入れ替えを行います  
■開館時間:9:00～18:00  
■観覧料:一般1,500円(1,200円)、高・大学生1,200円(1,000円)  
( )内は前売券、20名以上の団体料金(※中学生以下無料)  
☎017-777-1585  
<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kyodokan.html>



## 白神山地 ビジターセンター 白神ナイトツアー

■日時:7月18日(日)17:00～20:30  
■場所:西目屋村・津軽峠周辺  
■対象:小学4年生以上  
■定員:20人(参加費無料)  
■持ち物:飲み物、おやつ、雨具、  
双眼鏡、筆記用具、カメラ等  
■服装:野外活動にふさわしいもの  
(履物は山歩きに適したもの)



☎0172-85-2810  
<http://www.shirakami-visitor.jp/>

## 県近代文学館 7/10(土)～ 特別展「西北五文学散歩」

本県西北部は西北五地区と呼ばれ、太宰治「津  
軽」の主要な舞台となっており、谷崎潤一郎や松本  
清張ら中央の文人たちによって多くの作品に描か  
れた地域でもあります。  
西北五地区を描いた作品を紹介しながら、  
地域の魅力に迫る特別展を開催します。  
■会期:7月10日(土)～9月5日(日)  
休館日7月22日、8月26日  
■開館時間:9:00～18:00  
■場所:県近代文学館企画展示室  
(県立図書館2階)



☎017-739-2575  
<http://www.plib.net.pref.aomori.jp/top/museum/>

## 種差 少年自然の家 たねさしワールド「夏」

海で思いっきり遊ぼう(いかだ、  
カヌー、サンドクラフト、磯ビンゴなど)  
■日時:7月10日(土)・11日(日)  
※どちらか1日の参加申し込みとなります。  
■集合場所:種差漁港  
■定員・対象:小・中学生とその家族 各日100名  
(小学3年生以下の場合は保護者同伴)  
■参加料:一人500円程度  
■募集期間:6月22日(火)～6月29日(火)  
■申込方法:電話又はFAX(0178-38-2727)で

☎0178-38-2131  
<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-tanesashi/>

## 梵珠 少年自然の家 アウトドアライブ2010inサマー

アドベンチャービンゴ、馬ノ神山登山、いかだづく  
り、いかだ遊び、野外炊事、キャンプファイヤー、テ  
ント泊など  
■日時:7月24日(土)～27日(火)  
■定員・対象:小学5年生から中学3年生  
までの児童生徒 40名  
■参加料:一人5,000円程度  
■募集期間:6月24日(木)～7月16日(金)  
※ただし、定員になり次第締め切ります。  
■申込方法:電話、FAX(0173-29-3306)又は  
電子メール(e-bonju@pref.aomori.lg.jp)で

☎0173-29-3303

「津軽料理遺産」の  
価値を広く伝えたい  
初めて青森を訪れたとき  
は、美味しい食材・料理にあ  
ふれていることに衝撃を受  
けました。土地の特性や文化  
から作り上げられてきた郷  
土料理はどれも素直に美味  
しい!シンプルに素材の味  
を活かすことだけで成り立  
っている料理「若生おにぎ  
り」にも感動しました。当初  
津軽の郷土料理を10点に絞  
ってPRしようと考えてい  
ましたが、調べた結果、掘り  
起こされた350種類を超  
える料理の中から選ぶこと  
などできません。そこで、こ  
れらすべての魅力をそのま  
ま紹介することで価値を廣  
く伝える活動(Webサイト  
「津軽料理遺産」)をスタート  
したので。

青森との  
出会いは東京で食べた、  
津軽の郷土料理  
私は神奈川県ベッドタウ  
ン出身。だから、アイデンティ  
ティのある地方とそこに根付  
く郷土料理には、昔からとて  
も興味を持っていました。そ  
んな私と青森をつなげるきっ  
かけは、青森の食材を使った  
料理のお店を紹介してもらっ  
たこと。そこでいただいた、ジ  
ャップ汁(けの汁、あんこうの  
とも和え)に私の心は奪われま  
した。純粋で素材が本当に  
美味しい料理を体験したこと  
で心の底から青森のとりこに  
なり、料理をPRするために  
青森で仕事をしようと決めた  
のです。

青森りんごの美味しさを  
ホットアップルサイダーで  
12月の新幹線開通に合わせて本格  
的にPRを始めるのが、青森市浪岡  
のホットアップルサイダー。冷たい  
飲み物と違って温かい飲み物は本  
当に美味しくないと飲めないから、青  
森りんごの美味しさを伝えるには、  
これがピッタリだと思いましたね。  
今は仕事の都合で関東に戻ってしま  
すが、Webサイトやツイッターを  
利用して、PRしていきたいと考  
えています。住んでいたのは2年間と  
いう短い間でしたが、私の第2のふる  
さとを青森県だと決めました。い  
ずれ戻れる日を夢見てPR活動を続  
けたいと思います!

新幹線が開通すれば、関東か  
らたったの3時間で青森まで行け  
ることになります。これは多くの  
人にとって「なんだ、3時間で行ける  
んだ」という意識改革が起こる期待が  
大きい。県外の人情報をたくさん流  
通させていくことでビジネスの経験  
値を積み、美味しい料理にあふれた  
青森県はもっと活性化し発展してい  
きます!



郷土食コーディネーターとして  
活動している坂本貴秀さん。  
人生を変えた津軽の郷土料理の  
美味しさと、新幹線開通にかける  
期待を語っていただきました。

坂本貴秀  
郷土食コーディネーター  
1976年生  
平成20～21年度に青森県に在住、  
青森県の食をこよなく愛し、食を通じて  
地域を元気にする活動をしている。

## 読者プレゼント 「林檎の樹」

ハガキに、住所、氏名、年齢、電話番号、今回の「県民だよりおもしろ」の感想、興味を持った記事を明記の上、下記宛先にお送りください。なお、応募者が多い場合には抽選となります。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。ご了承ください。  
030-8570 青森市長島1-1-1 青森県広報広聴課「読者プレゼント」係



10名様

## 申吾のほろとろラム

青森県知事 三村 申吾

継続は力なり

平成16年にスタートした「命を大切にすることを育む県民運動」が七年目を迎えた。この運動は、子どもたちをめぐり痛ましい事件が全国的に多発したことをきっかけとしている。私たちの青森県でそういったことが起きない、起こさないために、地域や関係機関、企業等が力を合わせようと一緒立ち上がってくださり、参加団体は今年の3月で1250に及んでいる。

この間、子どもたちにみんなで声をかけ合う運動や、地域ごとのワークショップ、子どもたちが同世代を応援するメッセージ大会やパフォーマンス等の活動が県内あちこちで行われてきた。

特筆すべきは、県民の皆さん(子どもたちから大人まで)から原案を募集して、命のことを考える絵本を製作し、子どもたちに読み聞かせるという活動。

このほかにも「防犯笛(たすけっこ)」や缶バッジの制作・配布など、地域一体となった活動が、それぞれの工夫の元に行われてきた。実際に地道な皆さんの活動が、たくさんの方々の参加のもと着実に積み重ねられてきた。

そしてこの間、この運動を支えてきたのが、公募により制定されたキャッチフレーズ「ひとつのいのち。みんなの大切ないのち」である。七年を経てなお、今も新鮮でピュアな輝きをもっている。一人ひとりの命は自分だけのものではなく、まわりのみんなにとってもかけがえのない大切な宝であるという真実は、永遠に光を失うことがないからだ。

「継続は力なり」。

私たちのこの活動に最もふさわしい言葉である。この運動は続けていくことで、積み重ねていくことで、より多くの輪となり行動となっていくからだ。

県民の皆さんに改めてお願いしたい。一人ひとり、是非声に出して言ってみよう。行動してみよう。「ひとつのいのち。みんなの大切ないのち」。

7